

直径8cmの広葉樹を玉切り中、ガイドバー先端部が当たり、キックバックして左足親指を切傷を負う

📎 災害概要

- ▶原因：キックバック チェーンソー ▶発生月：6月 ▶FW研修：3年目
- ▶年齢：37歳 ▶受傷部位：左足親指 ▶傷病名：切傷 ▶作業内容：歩道作設

👤 発生状況

歩道新設、修理の作業中。階段に使用するための直径8cm程の広葉樹を伐採し、長さ80cmに玉切りする際、ガイドバーの先端部が幹に当たりキックバックして刃が左足親指に当たり切傷を負った(防護ズボンは着用、防護ブーツ非着用)。



原因

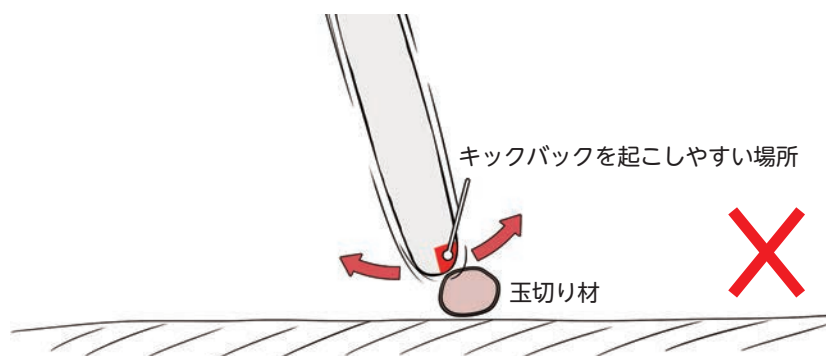
ガイドバーの先端部が雑木の幹に当たりキックバックした。

再発防止対策

- 防護ブーツの着用。
- 地面に横たわる細木の切断作業では、チェーンソーの先端で切断することが多くキックバックの発生を想定して防護姿勢で作業する。



チェーンソー作業時の服装と保護具
 (「改訂版 フォレストワーカー研修テキスト Vol.1」 参照)



残材(枕木)や地形を利用して地面との距離を確保したうえで玉切りを行う(ソーチェーンの刃こぼれも防げる)



地面に近い位置での小径木の玉切りはキックバックを起こしやすい

造材作業中にキックバックが発生し、メガネが破損し、そのレンズでまぶたを切った。鼻も負傷した

📎 災害概要

- ▶原因：キックバック チェーンソー ▶発生月：8月 ▶FW研修：1年目
- ▶年齢：57歳 ▶受傷部位：まぶた、鼻 ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：間伐、造材

👤 発生状況

傾斜15度、林齢45年スギ人工林の間伐。胸高直径26cmの伐倒木を木寄せした後、根曲部分の造材作業（切り落とし）を実施。片ひざをついて根曲がり部分を切り落とした際にキックバックが発生した。

チェーンソーが研修生のヘルメットに接触し、弾みでメガネが破損し、破損したレンズでまぶたに切創を負った。同時に鼻をチェーンソーの刃で負傷（防護ズボン・安全靴着用）。作業位置はやや傾斜の下側。

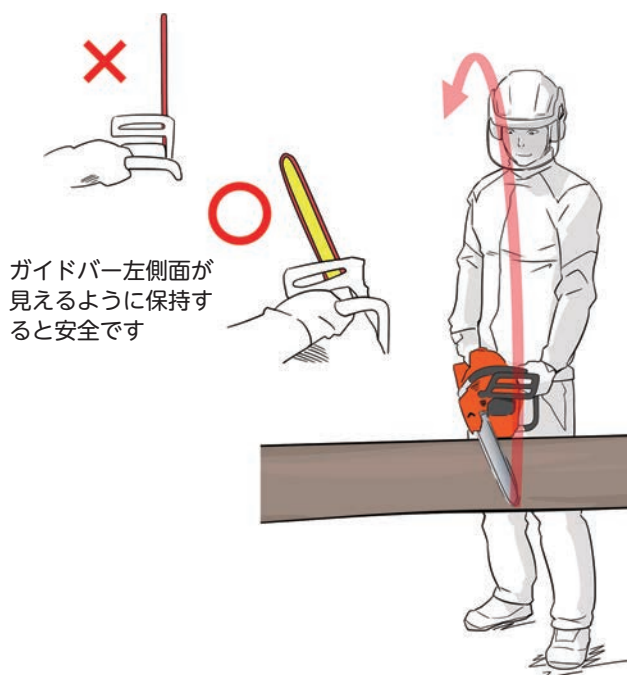


原因

造材直後に丸太に刃先が接触し、キックバックが発生した。
研修生は造材木に近づき過ぎたもよう。

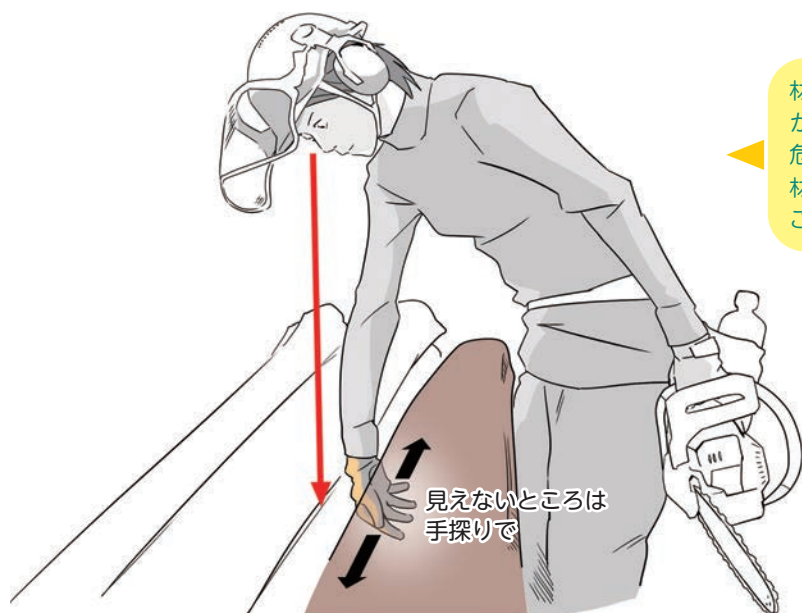
再発防止対策

- キックバックの発生を予測した距離を確保する。
- フェイスガードの着用の徹底。
- チェーンソーのハンドルは親指を回して握る。



キックバックが起こってもチェーンソーが当たらないようなポジショニングで作業します。右目でガイドバー左側面が見える状態を取ることが重要です。万が一、キックバックしたときでも顔に当たりません（参考：石垣正喜「写真図解でわかる チェーンソーの使い方」全国林業改良普及協会）

チェーンソー操作の基本姿勢
(横置きした丸太を切る)



材が重なり合っている時、バー先に接触しそうなものがある時、バー先に当たりキックバックを発生させる危険があるので作業前に確認しましょう（木寄せした材にはホコリや土が付着しているためソーチェーンの刃こぼれ防止にもなります）

玉切る前にまず状況確認

事例 No.25

キックバック
チェーンソー

玉切り中、チェーンソーの刃先が重なっていた他の木に当たりキックバックし、左ひざに当たり切創

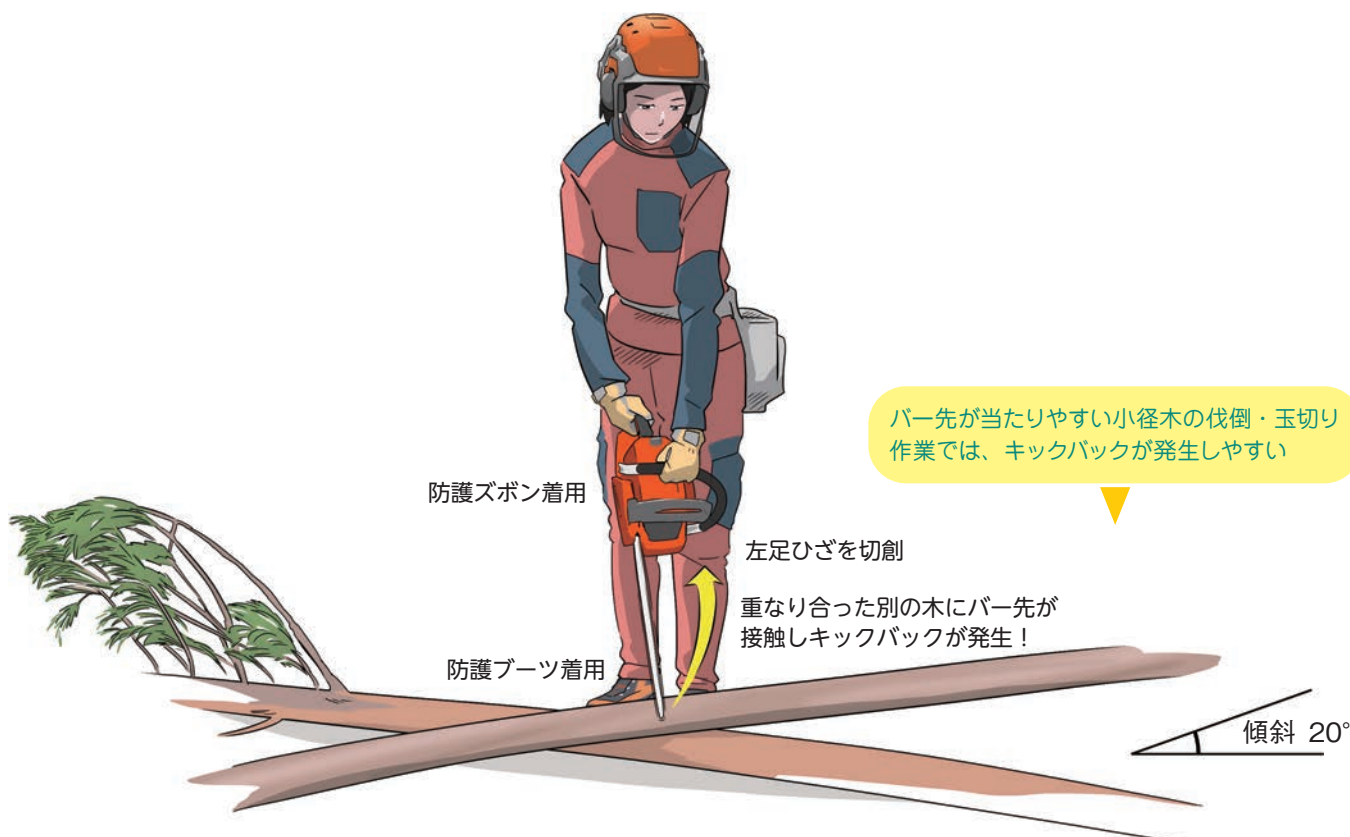
📎 災害概要

- ▶原因：キックバック チェーンソー ▶発生月：8月 ▶FW研修：2年目
- ▶年齢：24歳 ▶受傷部位：左足ひざ下部 ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：間伐、玉切り

👤 発生状況

傾斜20度、林齢50年ヒノキ人工林の間伐。作業に支障となる伐倒木(径級15cm程度)の玉切りを実施中。チェーンソーの刃先が重なっていた他の木に当たりキックバックが発生した。

チェーンソーが研修生の左ひざに当たり切創(防護ブーツ・防護衣は装着)。

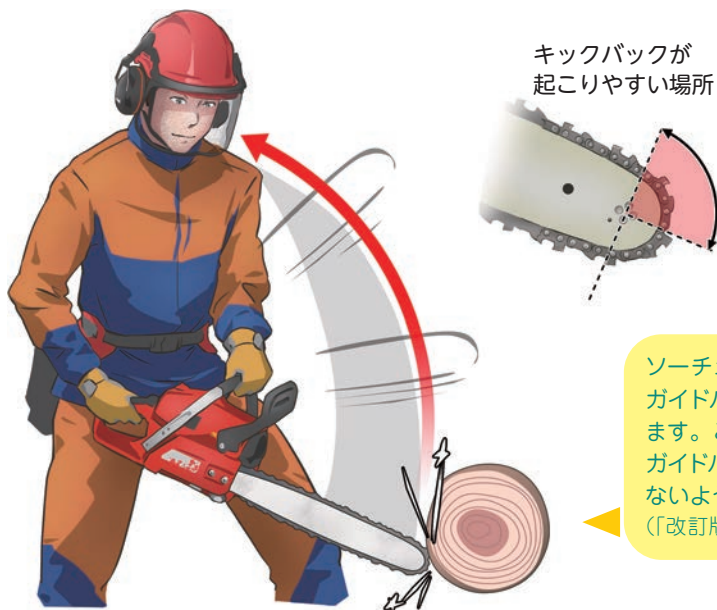


原因

重なり合った木にチェーンソーの刃先が触れてキックバックが発生した。

再発防止対策

- 15cm程度の小径木でもキックバックは発生する。発生する仕組みを理解する。
- 作業姿勢を常に注意して行う。



ソーチェーンが回転中にガイドバー先端上部に物が当たると、ガイドバーが勢いよく押し上げられチェーンソーが跳ね上がります。この現象をキックバックと言います。これを防ぐ方法はガイドバー先端上部で切らないようにすること、障害物を当たないようにすることです
〔改訂版 フォレストワーカー研修テキスト Vol.1〕 参照

キックバックの防止のため、ガイドバーの根元を使う



防護服が汚れていると保護機能が低下するので、汚れたら洗濯しましょう。洗濯や補修はメーカーの指示どおりに行き、耐用年数を過ぎた物は早めに交換することが大切です。表地が破れて中の保護材が飛び出した場合は使用をやめます

枯損木の追い口切りの作業中にキックバックが発生し、右足ふくらはぎと胸に切創を負った

📎 災害概要

- ▶原因：キックバック チェーンソー ▶発生月：9月 ▶FW研修：2年目
- ▶年齢：41歳 ▶受傷部位：右足ふくらはぎ・胸 ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：枯れマツ除去

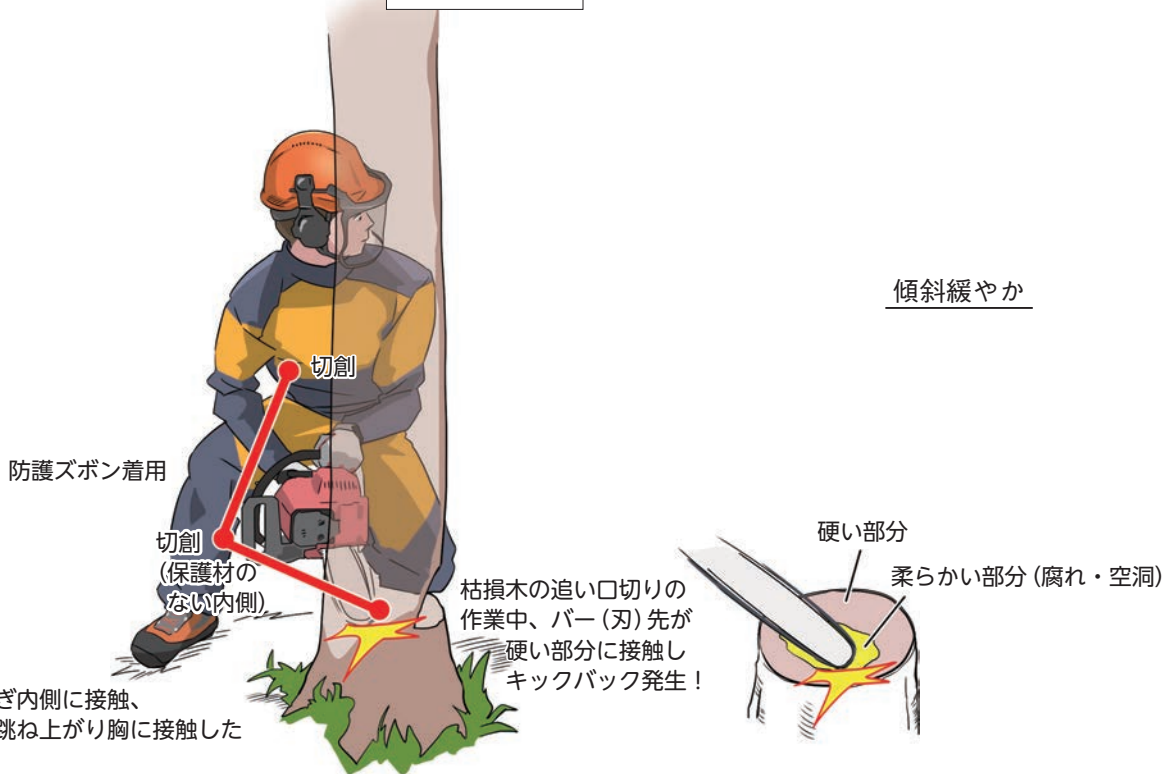
👤 発生状況

枯れマツを伐倒・除去作業中にキックバックが発生した。
チェーンソーの刃先が右足ふくらはぎに当たり切創。また、反動で回転刃となっていたがチェーン刃が胸に当たり切創を負った。
防護ズボンは装着していたが、保護のない個所に刃が当たった。

マツ (枯損木)

樹高 15m
胸高直径 28cm

傾斜緩やか

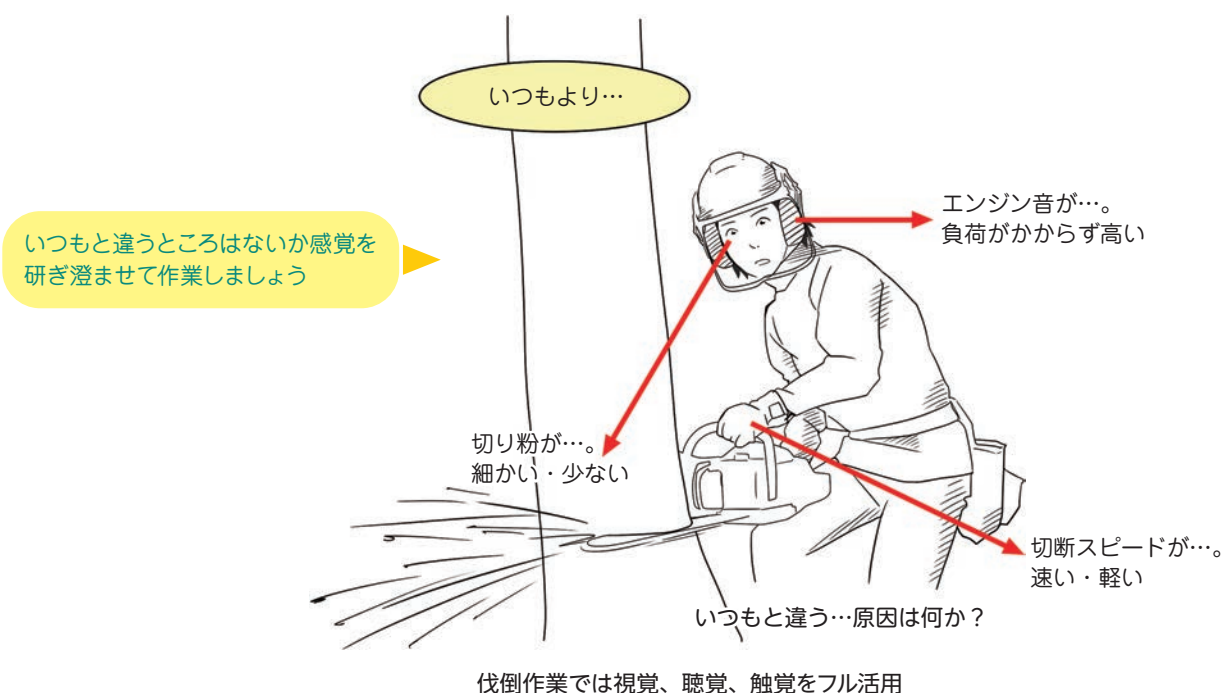


原因

追い口切り中のキックバックの発生。

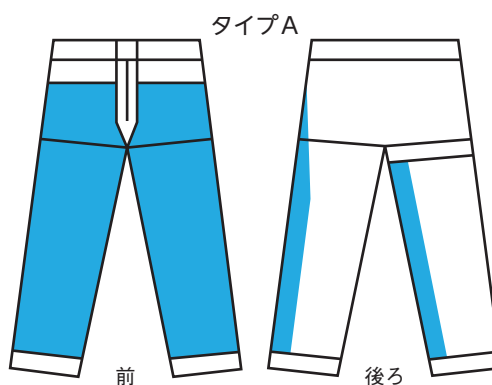
再発防止対策

- 枯木は材部に硬い部分、柔らかい部分が混在しており、慎重な作業を行う。
- 硬い部分に刃先が触れた場合、キックバックを起こすことはよくあり、特に注意する。



● チェーンソー防護ズボンのタイプ ●

防護範囲（防護素材の織り込まれている範囲）にはいくつかの決まりがあり、一般的には「タイプA」と区分しているものがほとんどです。脚部前面に加えて、両足の左側（左足の外側、右足の内側）は、多少後ろ側にも防護素材が織り込まれています。防護素材が左足内側にも入っている「タイプB」、両足後ろ部にも入っている「タイプC」も存在します。



伐り倒して重なり合った竹を切断中に刃先が触れキックバックが発生し、左足親指を切創

災害概要

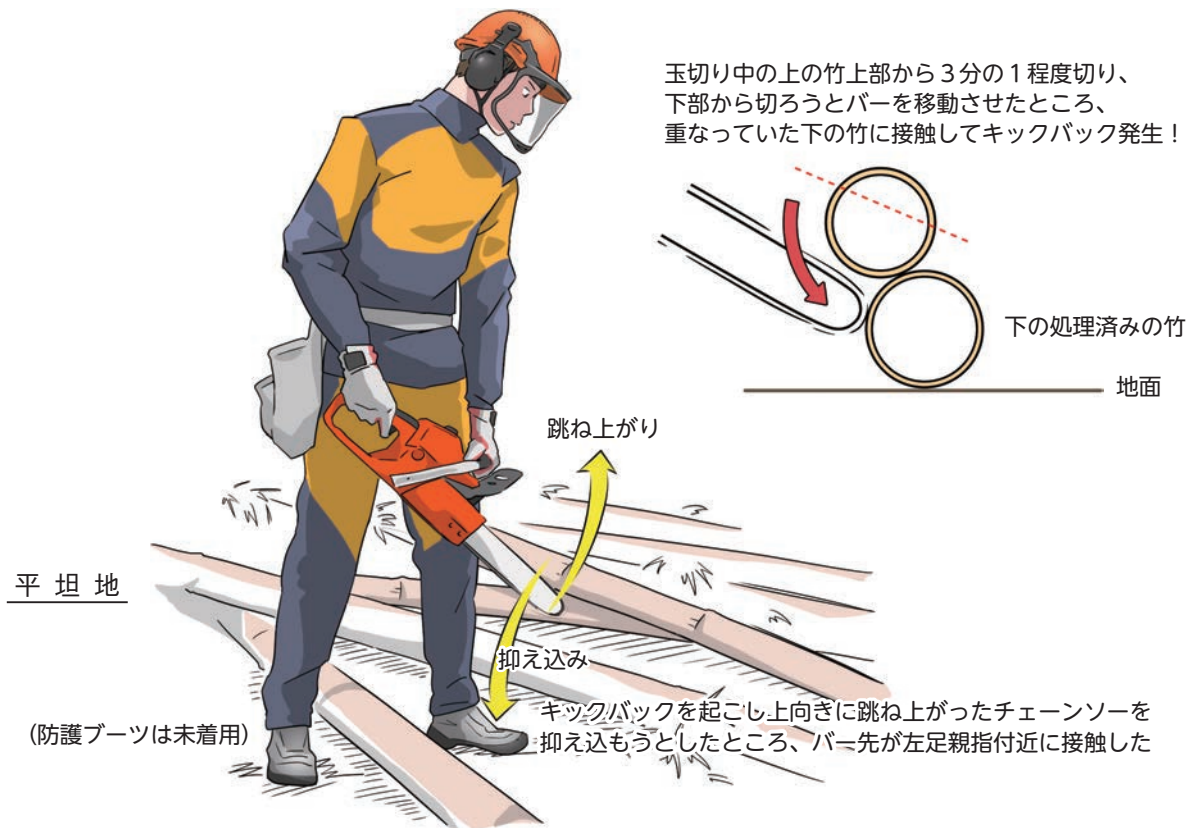
- ▶原因：キックバック チェーンソー ▶発生月：8月 ▶FW研修：2年目
- ▶年齢：19歳 ▶受傷部位：左足親指 ▶傷病名：切創
- ▶作業内容：竹の伐採

発生状況

竹林の伐採作業中にキックバックが発生した。

竹が重なっており、上部の竹を処理。上面を切断し下部からチェーンソーで切り離そうとしたところ、下にあった竹に刃先が触れキックバックが発生した。

刃先が左足親指部に当たり切創を負った。防護ブーツは未着装。



原因

竹林で竹に刃先が触れてのキックバックが発生。

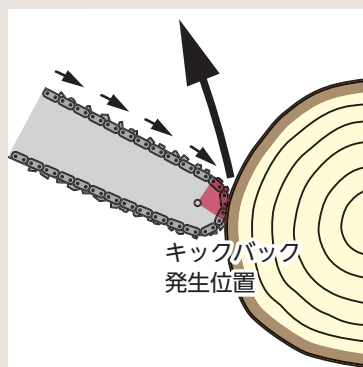
再発防止対策

- 地面に横たわった細い木、竹の切断作業では刃先が当たることが多く、キックバックが発生しやすい。
- 発生を予測した姿勢を確保する。
- 防護ブーツの着装の徹底。
- 竹を切断する場合は竹用の機種を使用する。

注意ポイント

キックバックを防ぐための留意点

- (1) ガイドバーの先端が物に触れないようにする
- (2) ガイドバーの先端上部4分の1は使用しない
- (3) 伐倒木の周囲から、かん木枝、石などを取り除いておく
- (4) 両手でチェーンソーをしっかりと持つ（左手の親指を前ハンドルの下に回して握る）
- (5) 可能な限りローキックバック（キックバックの少ない）ソーチェーンを使う
- (6) チェーンブレイキやハンドガードの安全装置がついたチェーンソーを使う
- (7) きちんと目立てをし、常にチェーンソーの切れ味を良くしておく
- (8) 切り始め、または切り終わりには、チェーンソーの回転速度を早いままにする



（参考：「なぜ？」が学べる実践ガイド 納得して上達！伐木造材術」全国林業改良普及協会）